



<N0210>

### ヒメウズ (姫烏頭)

繊細で清楚な草姿の多年草である。花は長さ 5-6mm でうつむいて咲く。花の外側に見えるのは萼(がく)片で、白色にうすく赤みを帯びることもある。花弁は萼片に隠れて見えない。葉の形も可愛く葉裏は淡紫色で優しい雰囲気がある。人里のやや湿った木漏れ日が射すような道ばたや民家の石垣の隙間などに普通に生えている。果実は上向きの袋果(袋状の実)で、成熟すると裂開して種子を飛ばす仕組みになっている。

本格的な春の訪れる前に新葉を出し開花結実する。他の植物との競争を避けることができ、小型の植物にとって生存のための戦略となっている。ヒメは姫を連想したところから。ウズは中国名のトリカブトのことで、「小さなトリカブト」に見立てたようだがオダマキの仲間である。キンポウゲ科、有毒植物。



<N0211>

### シロバナタンポポ (白花蒲公英)

タンポポ類の花は 100~200 個の小花が一つにまとまって頭状花 (とうじょうか) という花を形づくっている。小花 1 個に注目すると、花びらが細長い舌状の形になっている。シロバナタンポポはこの花びらが白色であることから名付けられたものである。シロバナタンポポは西日本に多く分布していて神奈川県内ではやや稀な、見つけると珍しがられるタンポポである。

厚木・愛甲周辺では在来種のカントウタンポポと外来種のセイヨウタンポポが圧倒的で、両者の違いは、総苞片 (そうほうへん=頭状花の裏側にあるガクに似たもの) が反り返るのが外来種で、反り返っていないのが在来種と見分けられる。さて、シロバナタンポポを探しながら自宅周辺に自生するのはどっちのタンポポか調べてみて欲しい。自然度を押し量るバロメーターとなる。キク科の多年草。